

都井岬に生息する御崎馬の観察と簡易調査

南俊行¹、板原彰宏²、横坂楓³、乾真子¹、鈴木崇文⁴、松沢哲郎⁵

1京都大学教育学部、2京都大学農学部、3京都大学総合人間学部、4京都大学野生動物研究センター、5京都大学高等研究院

はじめに

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の学部生自主セミナーおよび高大連携プロジェクト・霊長類学初歩実習の活動の一環として、宮崎県串間市の都井岬において御崎馬の観察実習を実施した。

観察日

2019年2月23日 9:00-16:30、24日 13:00-15:00

2019年8月8日・9日 両日とも8:30-15:00

御崎馬について

宮崎県の南端に位置する都井岬に生息し、日本の在来馬8品種のうちの1つに数えられる。体長、体高ともに約130cmほど。主に鹿毛と青毛、まれに栗毛。多くの個体は焼印によって容易に識別が可能。今西錦司らは、幸島でのニホンザル調査を開始する直前に、御崎馬の調査を行っていた。2019年5月時点で、都井岬全体には127頭（オス56頭、メス71頭）の御崎馬が生息していた。



興味深い観察内容

人馴れ



森林での行動（2月）



睡眠行動

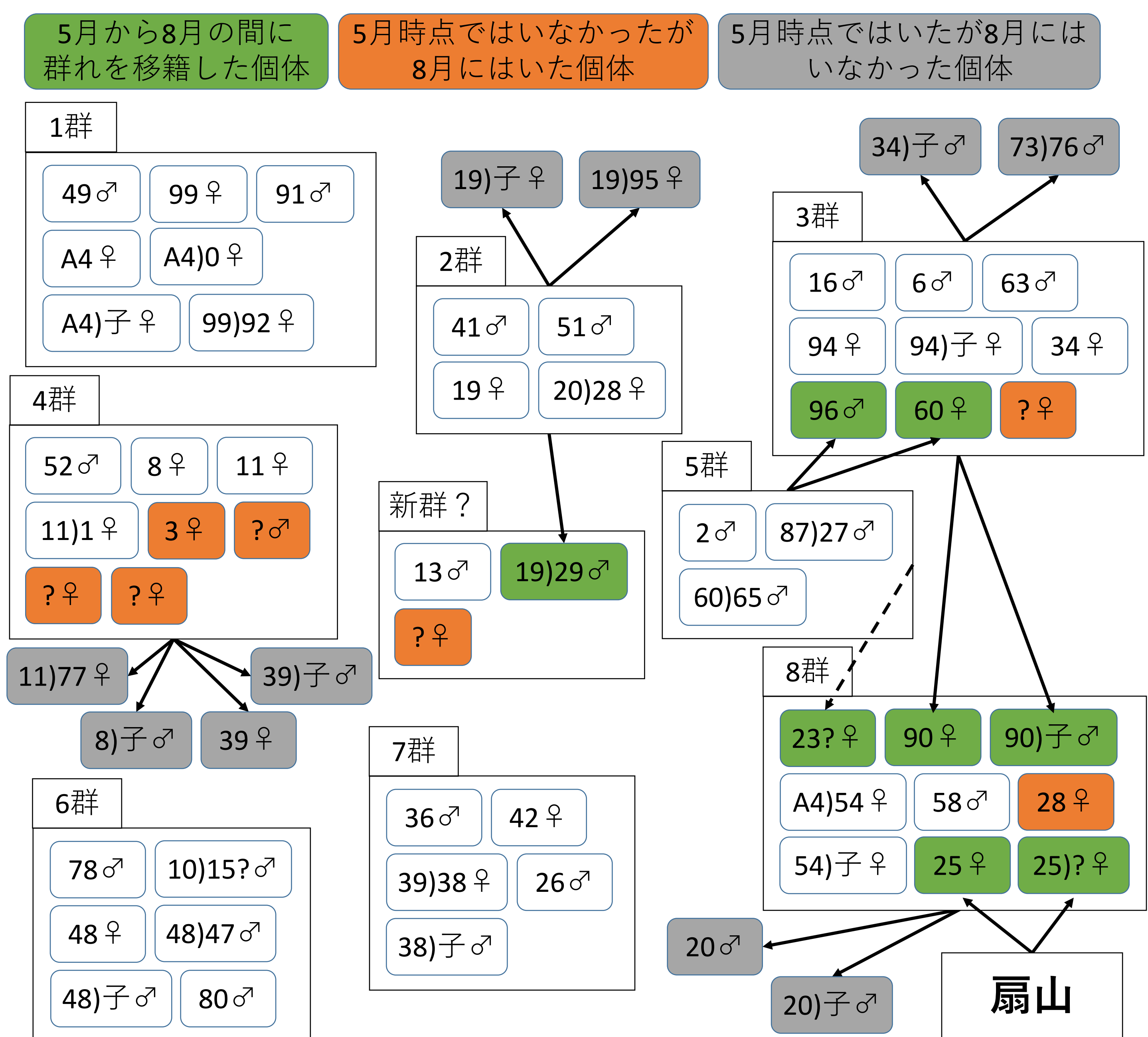


複雄複雌群と全雄群の駆け引き

8月の観察時、複雄複雌群（右図「8群」）のスターリオンが、全雄群（右図「5群」）を追い払おうとする場面を観察した。

群れ構成の変化

都井岬ビジターセンターが2019年5月に実施した個体調査の結果と、8月の観察時の群れの構成の間の変化をまとめた。下の図は、8月の観察時の群れ構成であり、矢印が5月からの個体の移動を表す。



学部生の調査報告

8月の観察時には、参加した学部生4名それぞれが御崎馬に関する自主テーマを設定し、簡易的な調査を実施した。

南

テーマ

ウマの母子関係

目的

ウマの母子関係を調査し、霊長類での知見と比較する。

方法

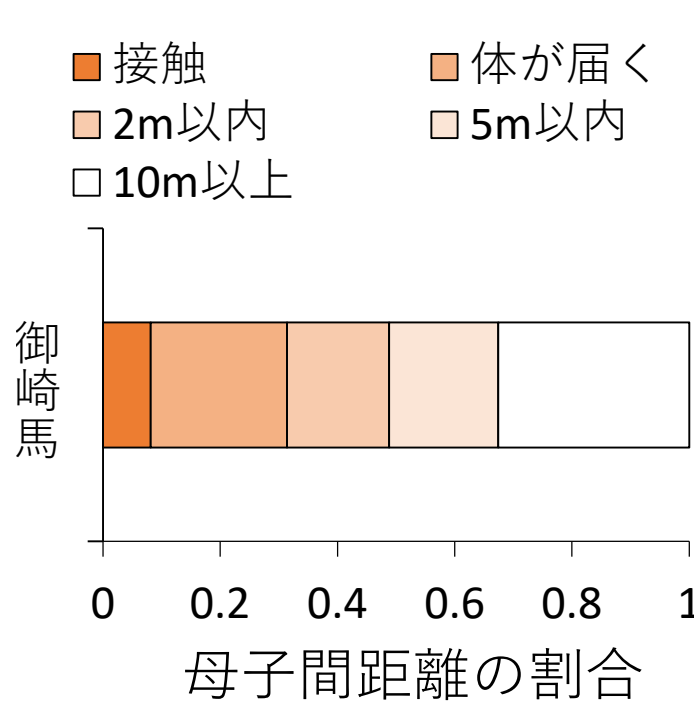
2019年春に生まれたアカンボウとその母親個体を対象に、
・母子間距離（1分スキャン）
・母子間の行動（連続）
を記録した。
アカンボウは生後4か月程と推定。

結果

3ペアを計86分追跡した。

アカンボウは母親のそばにいても接触はしようとし

ない。母子間の行動は授乳と授乳直前の鳴き交わしが主。



板原

テーマ

ウマの糞から生えるキノコ調査

方法

都井岬・小松ヶ丘にてキノコを探し、発見したキノコの写真と特徴のメモから、幸島観察所にて図鑑を用いて同定作業を行なった。

結果

検索時間：計450分
4種類のキノコが同定できた



ツヤマグゾダケ



シンガサタケ センボンサイギョウガサ タマツキカレバタケ

図鑑の限られた掲載写真数や知識不足により写真を撮ったもののほとんどが同定・種の区別さえもできなかった。

横坂

テーマ

ウマの半球睡眠

目的

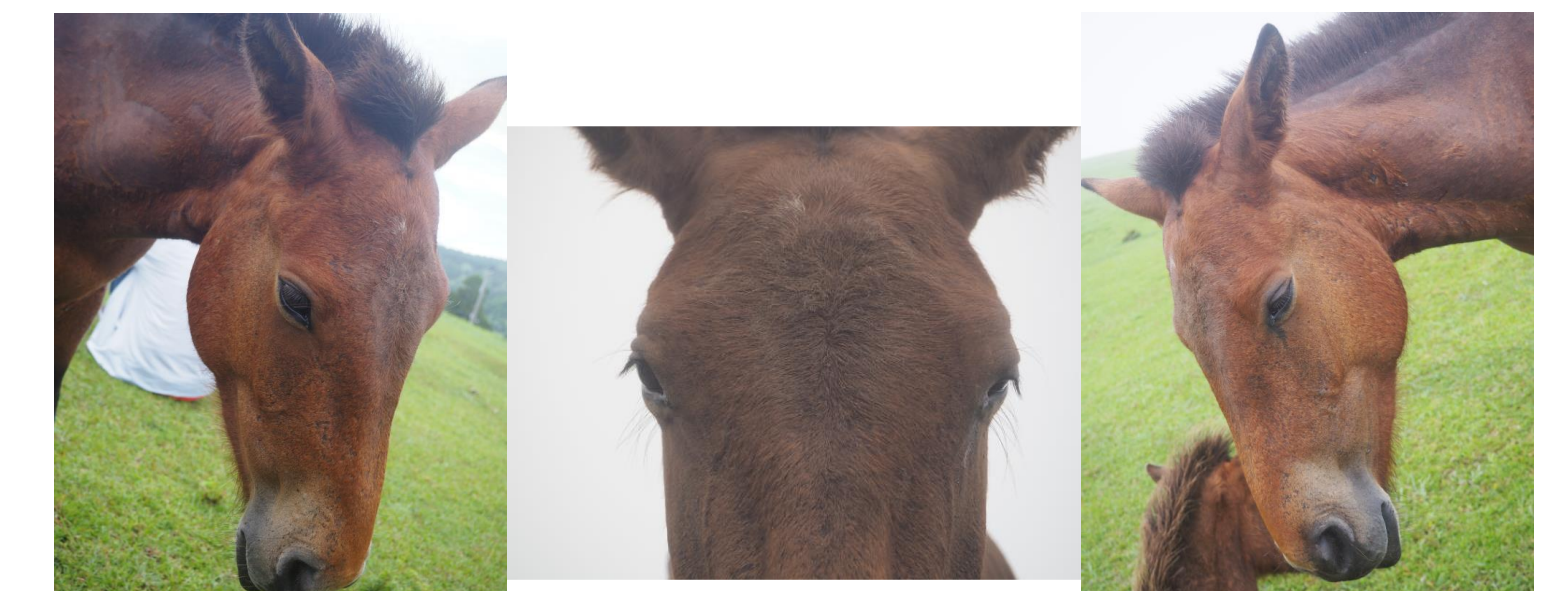
2月の観察時に興味を持ったウマの睡眠行動をより詳細に観察し、半球睡眠をしている可能性を探る。

方法

寝ているウマを左右と正面の三点からビデオ記録・観察した。

結果

片目だけを閉じる、開いている目と対応した側の耳のみ動き体が引きつく、といったことが観察されたことから、半球睡眠している可能性が示唆された。



睡眠中のウマを左・正面・右から撮影した写真。左目のみを閉じている。

乾

テーマ

ウマの耳の動き

方法

ウマの耳の動きと、その動きに関連していそうな行動を記録。

結果

こどもが母親のお腹や胸のあたりに耳を付けに行く様子がみられた。

バチェラー群では、三頭のオス（オトナー頭、コドモ二頭）が連なって耳を腹につけて眠っていた。

ハレム内での個体間距離が広くなりすぎないように、オスが他個体を追いやるとき、耳はピンとたった状態（＝緊張、イライラ）だった。



謝辞

今回の観察と調査を行うにあたり、京都大学野生動物研究センター、京都大学高等研究院の事務部の皆さまには、渡航にあたるお手続きで大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。また、都井岬ビジターセンターからは、群れ構成や個体動態に関する情報を提供いただきました。ありがとうございました。本研修は、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の事業の一環として実施されました。